

〈特集「モダリティ」〉

## ラトヴィア語アンケート

堀口 大樹

(1) (その仕事が終わったら) もう帰ってもいいですよ。

Jūs varat jau iet. Jūs drīkstat jau iet.  
 you can already to go you are allowed already to go

動詞 *varēt* 「できる (状況可能, 能力)」, または動詞 *drīkstēt* 「できる (許可)」を使う。

(2) (腐っているから, あなたは) それを食べてはいけない。 / それを食べるな。

Jūs nedrīkstat to ēst. Neēdiet to.  
 you are not allowed that to eat don't eat that

動詞 *drīkstēt* 「できる (許可)」に否定辞 *ne-* をつけると, 禁止の意味になる。否定辞を伴った命令形でも禁止の意味を得られる。

(3) (遅くなったので) 私たちはもう帰らなければならない～帰らざるを得ない。

Mums ir jau jāiet. Mums vajag jau iet.  
 we-dative is already go-debitive we-dative need already to go

動詞を義務法 (debitive mood, 接辞 *jā-*), または動詞 *vajadzēt* 「しなければならない」と動詞の不定形を使う。共に意味上の主語は主格ではなく, 与格で示される。現在時制の場合, 義務法の動詞につける *be* 動詞は任意である。

(4) (雨が降るそうだから) 傘を持って出かけたほうがいいよ。

Tu labāk paņem lietussargu.  
 you better take umbrella

副詞 *labāk* 「よりよく」で推奨の意味を示す。2人称単数の場合, 動詞は命令形, 直説法現在どちらでも可能 (同形)。

(5) 歳を取ったら, 子供の言うことを聞くべきだ / ものだ。

Ja tu kļūsti vecāks, tev jāklausa bērni.  
 if you become older you-dative listen-debitive children

義務法で表現。一般性、慣習性の表現では「子供」を複数形にする。義務法の場合、直説法で主格になる語は与格で、対格で示される補語は主格で示される。

(6) (お腹が空いたので、私は) 何か食べたい。

Es gribu kaut ko ēst. Es gribu kaut ko ēdamu.  
I want something to eat I want something eatable

動詞 *gribēt* 「したい」を使い、分析的に表現をする。主語の人称制限はない。また、動詞の補語に動詞不定形ではなく受動現在分詞を用い、名詞的に表現することも可能。

(7) 私が持ちましょう。

Es paņemšu. Es paturēšu. Es palīdzēšu.  
I will take I will hold I will help

動詞 *paņemt* 「とる」、*paturēt* 「(短時間) 持っている」、*palīdzēt* 「助ける」の 1 人称単数未来形。

(8) じゃあ、一緒に昼ごはんを食べましょう。

Nu tad pusdienosim kopā!  
well then we will lunch together

1 人称複数の未来形で勧誘を表現。

(9) 一緒に昼ごはんを食べませんか？

Vai pusdienosim kopā? Vai neiesim pusdienās kopā?  
whether we will lunch together whether we will not go to lunch together

1 人称複数の未来形で勧誘を表現し、疑問文にする。否定疑問文ではより丁寧となる。

(10) 明日、良い天気になるといいなあ。／明日は良い天気になってほしいなあ。

Ceru, ka rīt būs labs laiks.  
I hope that tomorrow will be fine weather

Vēlos, lai rīt būtu labs laiks.  
I desire that tomorrow would be fine weather

動詞 *cerēt* 「希望する」+ *ka* (従属節を導く接続詞, 以下の動詞は直説法), または 動詞 *vēlēties* 「望む」+ *lai* (従属節を導く接続詞, 以下の動詞は一般に願望法) で表現。

(11) これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう。

Liksim, lai tas cilvēks šo paņem. Lai tas cilvēks šo paņem.  
we will let particle that man this take particle that man this take

動詞 likt「させる（原義は「置く）」の直説法 1 人称複数の未来形に，助詞 lai を添える。  
動詞は直説法現在である。

(11) (私はここで待っているから) すぐにそれを持って来なさい。

Atnes to tūlīt.  
bring it immediately

動詞の命令形を使う。

(12) そのペンをちょっと貸していただけませんか？

Vai jūs varētu aizdot to pildspalvu?  
whether you could to lent that pen

動詞 varēt「できる（状況可能，能力）」の願望法 (subjunctive mood) を使う。

(13) あの人には中国語が読めます。／あの人には中国語を読むことができます。

Tas cilvēks lasa ķīniski Tas cilvēks var lasīt ķīniski.  
that man read in Chinese that man can to read in Chinese

Tas cilvēks prot lasīt ķīniski.  
that man is able to read in Chinese

接頭辞の有無によるアスペクト対立を持つ動詞の場合，接頭辞を持たないインパーフェクティヴの動詞は，恒常的な能力を示す。動詞 lasīt「読む」の直説法のほか，動詞 varēt「できる（状況可能，能力）」，動詞 prast「できる（能力）」を使い，分析的に能力を示すことも可能。

(14) 明かりが暗くて，ここに何て書いてあるのか，読めない。

Gaisma ir tumša, nevaru salasīt, kas te rakstīts.  
light is dark I can not to read and make out what here written

Gaisma ir tumša, nevaru izlasīt, kas te rakstīts.  
light is dark I can not to read what here written

動詞 varēt「できる（状況可能，能力）」を用いる。さらに接頭辞 sa-は，主に知覚動詞に付加されると，感覚器官の知覚能力を強調する語彙的意味を持つ。（例：saredzēt「見える」，saskatīt「見出す」，sadzirdēt「聞こえる」，saklausīt「聞きとる」，sajust「感じ取る」）接頭辞の有無によるアスペクト対立を持つ動詞の場合，接頭辞を持つパーフェクティブの動詞（例：izlasīt）も，動作の状況可能性を示す。

(15) (朝早く出発したから) 彼らはもう着いているはずだ。 / もう着いたに違いない。

Viņiem ir jau jābūt tur.  
they-dative is already be-debitive there

確信性を示す義務法の用法。

(16) (あの人は) 今日はたぶん来ないだろう。

Šodien viņš laikam neatnāks.  
today he maybe will not come

推量を示す未来形。

(17) 彼らがまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか。

Viņi vēl nav ieradusies, laikam viņiem mašīna  
they yet have not appeared maybe they-dative car

ir salūzusi pa ceļam.  
have broken on the way

副詞 laikam「きっと，たぶん」で疑念を示す。

(18) さあ，(昼間だからあの人は家に) いるかもしれないし，いないかもしれない。

Nezinu, varbūt viņš ir, varbūt viņš nav.  
I don't know maybe he is maybe he is not

副詞 varbūt「きっと，たぶん」で可能性を示す。動詞は直説法である。

(19) (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。

Man šķiet, ka jums ir temperatūra.  
I-dative it seems that you-dative is temperature

動詞 šķist「のように思える」を使用。従属節の動詞は直説法である。

(20) (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ.

Rīt būšot lietus. Rīt lišot.  
tomorrow will be-relative rain tomorrow will rain-relative

伝聞法 (relative mood) の未来形を使用.

(21) もしお金があったら, あの車を買うんだけれどなあ.

Ja man būtu nauda, es nopirktu to mašīnu.  
if I-dative would be money I would buy that car

主節, 従属節共に願望法を使用する.

(22) もしあなたが教えてくれていなかったら, 私はそこにたどり着けなかったでしょう.

Ja jūs man nebūtu pateicis, es tur nebūtu nokļuvis.  
if you I-dative would not have said I there would not have reached

主節, 従属節共に願望法を使用する. 事象が過去に起きる願望法の場合, 動詞は分析的に複合時制 (be 動詞 būt の願望法 + 動詞の能動過去分詞) の形をとる.

(23) (あの人は) 街へ行きたがっている.

Viņš grib doties uz pilsētu.  
he want to go to city

動詞 gribēt 「したい」の主語に人称の制限はない.

(24) 僕にもそれを少し飲ませろ.

Iedod man arī to padzerties.  
give I-dative too it to drink a little

動詞 iedot 「与える」の2人称単数の命令形に, 目的の動作となる動詞を不定形で添える.

(25) これはあの人に持って行かせろ / 持って行かせよう.

Lai to paņem tas cilvēks.  
let it take that man

助詞 lai を使う. 動詞は直説法現在.

(26) そのテーブルの上のお菓子を後で食べなさい。

Apēd vėlāk saldumus, kas ir uz tā galda.  
eat-imperative later sweets that are on that table

動詞の2人称命令形。

(27) もっと早く来ればよかった。

Kaut es būtu atnācis ātrāk.  
particle I would have come earlier

願望を示す助詞 kaut+動詞接続法で反実仮想を示す。事象が過去に起きる願望法の場合、動詞は分析的に複合時制 (be 動詞 būt の願望法+動詞の能動過去分詞) の形をとる。

(28) あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

Kāpēc neiet jums kopā?  
why not to go you-dative together

疑問詞 kāpēc「なぜ」に否定辞 ne-をつけた動詞の不定形。意味上の主語は与格で示される。

(29) そんなことオレが知るか!

No kurienes lai gan es to zinu!  
from where albeit I it know

疑問詞句 no kurienes「どこから」、譲歩を示す助詞句 lai gan, 動詞の直説法現在で示す。疑問詞を含んでしまうが、否定辞を伴わないので、結果的に反語となる。

(30) これを作った (料理した) のは、お母さんだよ。いいえ、私が作ったのよ。

To pagatavoja mamma? To pagatavoja mamma, vai ne? Nē, es pagatavoju.  
it cooked mum it cooked mum isn't it? no I cooked

同じ動詞を繰り返すか、付加疑問文とする。

例文は20代のラトヴィア語母語話者(女性, 20代, リーガ出身)に校閲をしていただいた。